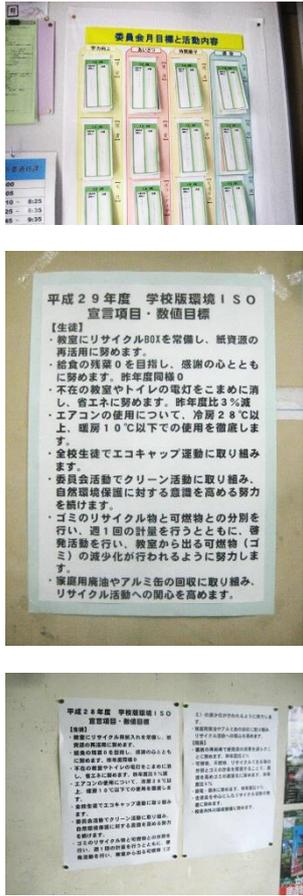
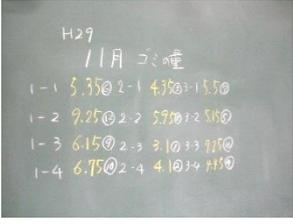


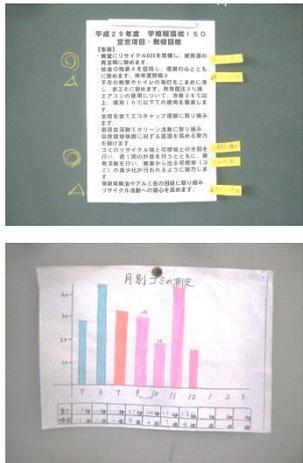
平成 29 年度 学校版環境 I S O への取組 概要報告

管内	市町村	学校名
球磨	人吉市	人吉市立第二中学校

1 取組の概要

項目	活動の様子 (写真)	取組の実際
<p>宣言</p>		<p>生徒の宣言項目</p> <p>生徒会・専門委員会主体での行動目標</p> <ol style="list-style-type: none"> 各教室に再生紙回収ボックスを常備し、環境委員会で紙のリサイクル活動に取り組みます。 ゴミの分別に努めます。教室から出る可燃物を週 1 回計量を行い、グラフ化することでゴミの減量に努めます。 環境委員会の活動で、アルミ缶・廃油の回収活動に取り組みます。 給食の残菜ゼロを目指し、感謝の心とともに取り組みます。昨年度と同様に 0% に努めます。 ボランティア委員会の活動で、クリーン活動に取り組み、環境美化に努めます。 使用しない教室やトイレ電灯の消灯を心がけ、省エネに努めます。昨年度比 3% 減に努めます。 <p>職員の宣言項目</p> <ol style="list-style-type: none"> 印刷物は、両面印刷や裏紙の再利用で、紙資源の消費を減らすことに取り組みます。昨年度比 2% 減に努めます。 可燃物、不燃物、リサイクルできる物の分別と可燃物の計量を行うことで、意識を高めゴミの減量化に取り組みます。昨年度比 3% 減に努めます。 節電、節水に努めます。昨年度比 2% 減に努めます。 生徒会・専門委員会活動を活発化させ、リサイクル活動の推進に努めます。 校舎内外の環境整備に努めます。 エアコンの使用について、冷房 28℃ 以上、暖房 10℃ 以下での使用を徹底します。

<p style="text-align: center;">行動</p>	   	<p>1 環境問題解決への取組</p> <p>(1) 各教室に再生紙回収ボックスを常備し、月1回の環境委員会の活動で、紙の分別をしてリサイクル活動を行った。</p> <p>(2) 両面印刷や裏紙での印刷を行い、紙の減量に努めることができた。</p> <p>(3) ゴミの分別に努め、リサイクルできるものを積極的に分別することができた。</p> <p>(4) 生徒会の委員会活動では、環境委員会で毎週火・水曜日に、各家庭からのアルミ缶や天ぷら油などの廃油の回収活動を行った。アルミ缶や家庭からの廃油の回収には、職員も参加をし生徒と一緒に活動をした。アルミ缶は、業社へ定期的に搬入し、学校の花壇へ植える苗の代金に充てる予定である。また、ボランティア委員会によるエコキャップ回収を行った。</p> <p>(5) 使用しない教室やトイレ等の電灯の消灯を心がけ、清掃活動の時間は、エアコンの電源を職員室の操作盤で切るなど省エネに努めた。</p> <p>2 給食の残菜ゼロへの取組</p> <p>給食をつくっていただく給食センターの方々への感謝の心を忘れないように、給食委員会でポスターを制作し、各学級で委員が啓発と呼びかけを行った。給食センターの連絡帳で、給食時の様子や健康状態、他校の情報をくわしく知ることができた。また、給食センター職員も積極的に来校していただき、情報交換を行うことができた。</p>
<p style="text-align: center;">記録</p>	 	<p>1 毎月の教室から出される可燃物の量</p> <p>環境委員会の活動で、毎週木曜日に教室から出される可燃物の量を1年間を通して計測した。ゴミの量を計測した合計を月ごとの量を各学級の環境委員がグラフに記入し、前月との比較や学級の順位を出すなどしてゴミ減量の意識化を図った。また、その月のゴミの増加分について原因を考えさせて、具体的な対策を学級に立てさせた。</p> <p>2 ボランティア活動の記録</p> <p>各学級でペットボトルキャップの回収を呼びかけ、体育大会の各団対抗のエコキャップ回収活動につなげ、意識化を図った。</p>

見直し		<p>1 学校版環境ISO宣言文の見直し</p> <p>環境委員会を中心に、学校版環境ISO宣言文の項目について各学期末に見直しを行った。学期ごとに反省をし、現状と課題について、主に各学級から出される可燃物の量などのデータを基に話し合った。今後の方策についての意見として、4月から生徒会・専門委員会での啓発を呼びかけるものや取組の習慣化を図っていくことなどの提案が出され、来年度へ向けた取組に生かされる項目もあった。</p> <p>2 ゴミの減量化へ向けて</p> <p>毎月学級から出される可燃物の量について、見直しをする機会を環境委員会でを行った。月ごとのゴミの量をグラフに記入し、前月との比較や学級順位を出すなどして分析を行った。また、学級で対策を検討し、可燃物ゴミが多くなった月は行事がある月であり、後片付けなどできちんとリサイクルができる物との分別ができていないなど反省が出された。引き続き、環境委員による朝の会、帰りの会での可燃物ゴミの減量を図るためにリサイクルの呼びかけを行った。</p>
-----	---	---

2 成果と課題

成 果	課 題
<p>1 教室から出る可燃物をなるべく出さないように、再生紙回収ボックスを活用することができた。毎月環境委員会でリサイクル活動をするが、月ごとに量は多くなっている傾向が見られた。生徒会の環境委員会やボランティア委員会等が積極的に先導することにより、生徒の自主活動に役立っている。</p> <p>2 給食の残菜ゼロ運動は、定着している。学級ごとに独自の取組をしている。また学年では、近くの学級で協力し合うことで、残菜ゼロを目指した食育への関心は高まっている。</p>	<p>1 各専門委員会でそれぞれに計画している内容について横の連携を図り、学校版環境ISOでの取組として実施することができれば、さらに全校生徒の意識が高まるのではないかと思われる。</p> <p>2 家庭と地域とのつながりを密にし、リサイクル活動や地域でのボランティア活動などを今後さらに積極的に広げていく必要がある。</p>